

I 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

<p><b>【2015年度大学評価結果総評】</b></p> <p>・該当なし</p>
<p><b>【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</b>（～400字程度まで）</p> <p>・該当なし</p>

II 自己点検・評価

1 教員・教員組織

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。														
①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ												
<p><b>【執行部の構成、インスティテュート内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・国際日本学インスティテュート運営委員会を設置（インスティテュートの管理運営に関する事項を審議。運営委員会には委員長をおく）。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・法政大学大学院人文科学研究科国際日本学インスティテュート運営委員会規程</p>														
1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。														
①研究科（専攻）等のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ												
<p>（～400字程度まで） ※カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。</p> <p>本インスティテュートは人文科学研究科のうち、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の各専攻が共同で開設する日本学研究のコースである。教員は専担・兼担・兼任の3種に分かれる。専任教員は上記5専攻のなかから、思想・文学・芸術・サブカルチャー・言語・歴史・民俗・社会・地理・環境等の面から日本研究に携わる21名の教員により構成される。専任教員は修士課程の演習科目「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」（必修科目）を担当するほか、修士・博士論文の指導を行う。兼任教員は上記5専攻と他研究科・学部、研究所に所属する教員15名から成り、兼任教員は本学以外より委嘱した40名から成る。兼担・兼任教員は、本インスティテュートの基幹科目・関連科目（必修選択科目）を担当し、主に人文科学の諸領域を基盤とした日本研究について教授するほか、留学生の日本語教育も担当している。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.6（国際日本学インスティテュート教員組織）</p>														
2016年度研究指導教員数一覧（専担）（2016年5月1日現在）														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>研究科・専攻 ・課程</th> <th>研究指導 教員数</th> <th>うち教授数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>修士</td> <td>19</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>博士</td> <td>21</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>研究科計</td> <td>40</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>	研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	修士	19	18	博士	21	20	研究科計	40	38		
研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数												
修士	19	18												
博士	21	20												
研究科計	40	38												
1.3 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。														
①研究科（専攻）等内のFD活動は行われていますか。	A	<input checked="" type="checkbox"/> B												
<p><b>【FD活動を行うための体制】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・国際日本学インスティテュート運営委員会</p> <p><b>【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・2015年8月8日、学内、留学生に対する日本語教育における教育効果向上に向けた意見交換、4名。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>														

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2016 年度より専任教員を 2 名増員することを決定した。	1. 2①

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし
-------

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートは、2011 年度に人文科学研究科内の心理学専攻を除く 5 専攻の共同で開設された日本学研究に特化した教学組織であり、教員組織も、専任教員(21 名)・兼任教員(15 名)・兼任教員(40 名)の 3 種から構成され、相応の独自性を持っている。また、そのことにより、従来型の専攻とは異なる柔軟性と機動性を備えていることは評価できる。そのような特質があるとはいえ、国際日本学インスティテュート運営委員会のもとで教育組織としての役割分担と責任の所在は明確にされている。FD 活動においては、他専攻の留学生に対する日本語教育にも注力しており、大学院のグローバル化推進への貢献が大いに期待される。
--

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【教育課程の編成・実施方針】</b>	
指導教授が指導する 10 以上の演習では、通常の授業のほかに論文指導を行っている。全員参加の国際日本学入門や合同演習では、日本の今昔の様々な文化をゲスト講師から学び、さらに互いの論文テーマの発表や意見交換を行っている。英語、日本語それぞれの文章訓練を行う授業もある。独自の基幹科目と多様な共通科目があり、他専攻の授業で単位を取得することも可能である。このように選択の自由のもとで幅広い知識を得ながら、演習では高度な専門的論文を執筆できるようカリキュラムが生まれ、それを実施している。	
2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 修士課程ではコースワーク・リサーチワークが適切に組み合わせられたカリキュラムが編成されている。同課程では修士論文の提出が義務づけられ、そのための研究指導科目として「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」が 1・2 年各年次必修で開講されている。これが本インスティテュートにおけるリサーチワークに該当する。また、コースワークとしては、日本研究にかかわる多様な科目群が本インスティテュート独自に開講されているほか、本インスティテュートを開設する 5 専攻と合同で開講されている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2016 年度『大学院講義要項(シラバス)』pp. 273～276 (科目一覧)	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
(200～400 字程度) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。 博士後期課程でのカリキュラムは研究指導のための授業科目が設置されているのみで、コースワークが導入されていない。だが、2017 年度にはコースワーク・リサーチワークを組み合わせた新カリキュラムを導入することが決定している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C

(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

修士課程のカリキュラムは、学籍科目(4単位以上)、必修科目(12単位)、国際日本学基幹科目・国際日本学関連科目(8単位以上)から構成されている(修了所要単位30単位以上)。このうち、必修科目の「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」「国際日本学合同演習」(1・2年各年次履修、計12単位)では、修士論文作成に向けた研究指導が行われている。また、本インスティテュート独自の開講科目である「国際日本学関連科目」、本インスティテュートを開設する5専攻と合同開講する「国際日本学関連科目」、学生の所属専攻の開講科目から履修する「学籍科目」を通じて、学生は日本研究にかかわる諸領域を幅広く、かつ専門的に学ぶことが可能となっている。

博士後期課程では「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」ほかの科目が設置されており、博士論文作成に向けた研究指導が行われている。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項(シラバス)』p.277(履修上の注意)

②大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。

A  B  C

(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。

本インスティテュートでは在籍者の約9割が留学生であるため、教育のグローバル化は必須である。まず、修士課程には「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」を開講し、留学生の日本語作文力の指導に努めている。また、日本文学専攻と合同で、「日本文学・国際日本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、主に研修生クラスを対象とした日本語・日本研究の基礎教育を行っている。一方で、「国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ・Ⅱ」を開講し、学生が英語で自身の研究を発表・論文化する力を育成するとともに、「Issues in Japanese StudiesⅠ」を開講し、英語による日本研究の科目も設けている。さらに、2016年度からは人文科学研究科全体の外国語科目を改革し、英語をはじめとする諸外国語の科目が単位化されることになった。このほか、本学大学院が実施している海外における研究活動補助制度の活用を促し、海外における研究発表等を奨励している。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項(シラバス)』pp.8～9(外国語科目の履修について)、p.277(履修上の注意)

## (2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度に国際日本学基幹科目に「サブカルチャー論Ⅰ・Ⅱ」を新設した。	2.2①
・2015年度に「国際日本学論文作成実習(日本語)Ⅰ・Ⅱ」を能力別2クラス制から3クラス制へ拡充した。また、2016年度より、これを「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」に再編し、教育の充実化を図ることを決定した。	2.2②
・2015年度に国際日本学関連科目に「Issues in Japanese StudiesⅠ・Ⅱ」を新設した。	2.2②

## (3) 現状の課題・今後の対応等(必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・2017年度に博士後期課程にコースワーク制(単位制を含む)を導入する予定。カリキュラムはすでに決定している。

## 【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュート修士課程ではコースワークとリサーチワークを組み合わせた教育が適切に実施されていることは評価できる。博士後期課程では、2017年度からコースワークとリサーチワークを組み合わせた新カリキュラムを導入する方針が決定しており、予定通り実現し教育効果が向上することを大いに期待したい。修士課程の学籍科目・必修科目・国際日本学基幹科目・国際日本学関連科目から構成される独創的なカリキュラムは先駆的な試みとして評価できる。また、在籍者の約8割が留学生であることは、大学院全体のグローバル化の推進力として大いに期待できる。留学生に日本語の基礎教育と同時に、英語による研究能力も高める工夫を凝らしている点も高く評価できる。研究活動補助制度が研究を行う上で十分ではない状況にあるとのことであり、研究活動補助制度の改善要望も含めた検討・対応を期待したい。

## 3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【履修指導の体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員長がオリエンテーションを通じて指導している。</li> <li>・『大学院講義要項（シラバス）』中に「履修上の注意」の項目を設け、履修方法を明示している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.277（履修上の注意）</li> </ul>	
②研究科（専攻）等として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p><b>【研究指導計画の明示方法】</b> ※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国際日本学合同演習」における論文報告会の設定が、修士・博士論文作成に向けた過程に対応している。よって、同科目のシラバス（授業計画の項）が、本インスティテュートにおける研究指導計画を示している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.300（国際日本学合同演習）</li> </ul>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>（～400字程度まで） ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>修士課程においては、専任教員がそれぞれ「国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ」を担当し、修士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、「国際日本学合同演習」では修士課程の全学生が履修し、研究内容の定期的な報告を行うとともに、学生・教員間の討議も行っている。</p> <p>博士後期課程においては、専任教員が担当する「国際日本学研究Ⅰ・Ⅱ」等を通じて、博士論文執筆に向けた研究指導を行っている。また、博士後期課程の学生も「国際日本学合同演習」に定期的に参加し、研究の中間報告を行うことが義務づけられている。</p> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』pp.278～299（国際日本学演習Ⅰ・Ⅱ）</li> <li>・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』p.300（国際日本学合同演習）</li> </ul>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員長による全シラバスチェックを実施している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【確認体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会において、成績評価方法を必要に応じて審議している。</li> </ul> <p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①組織的な教育成果の検証を定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p><b>【検証体制および方法】</b> ※箇条書きで記入。</p>	

<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営委員会において、学生の学修状況に照らして論文指導体制、授業のあり方について、必要に応じて審議している。</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
<b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業がシラバスに沿って実施されているかの検証、学生による授業改善アンケートの結果の活用についての検討が必要である。</li> </ul>
--

**【この基準の大学評価】**

<p>国際日本学インスティテュート運営委員会委員長を中心に履修指導は適切に行われていると評価できる。研究指導計画については、「国際日本学合同演習」や「国際日本学入門」、各演習などにおいて、委員長をはじめ、各専任教員から適切に周知が行われている。シラバスの検証については、必修科目の一部と基幹科目について、授業改善アンケートにより行われている。なお、授業がシラバスに沿って行われているかの検証や授業改善アンケートの結果の活用については検討を要するとのことなので、今後の検討と必要に応じた改善に期待したい。</p>
---

4 成果

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【学位授与方針】</b> 修士の学位授与にあたっては、他の専攻とは異なり、幅広い分野を取り込んだ日本学の論文を執筆完成することを推奨している。博士の学位授与にあたっては、より専門的な論文を執筆するも、従来顧みられなかった大衆文化や異文化など多様な視点や個性的なアプローチ、挑戦的な方法を推奨している。博士後期課程の学生は国際日本学研究所の学術研究員となり、研究成果の発表、学会参加などの機会が提供され、研究者としての意欲が求められる。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A B <input checked="" type="checkbox"/> C
(～400字程度まで) ※取り組みの概要を記入。 本インスティテュートでは学生の学修成果は学位論文を通じて測定している。そのため、修士論文の最終試験(口述試験)は全教員立ち会いのもとで実施し、学生の到達度を確認している。また、論文執筆の過程で「国際日本学合同演習」の一環として中間報告会を随時設け、こちらへも全教員が参加し、学生の学修成果について確認を行っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
4.2 学位授与(卒業・修了認定)は適切に行われているか。	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション時に配布している。</li> <li>・指導教員を通じて配布している。</li> </ul>	

<p><b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際日本学インスティテュートにおける修士論文審査基準に係る規程</li> <li>・国際日本学インスティテュートにおける博士論文の審査基準に係る規程</li> </ul>	
②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、運営委員会において修士論文、博士論文の提出・合格状況を確認している。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400字程度まで) ※取り組み概要を記入。</p> <p>リサーチワークを重視する本インスティテュートでは、学位の水準を保つことは即ち学位論文の水準を保つことにほかならない。そのため、修士課程では「国際日本学合同演習」を1・2年次必修科目として、研究方法の共有化を図るとともに、修士論文執筆に向けた中間報告会を実施している。また、修士論文口述試験は全教員立ち会いのもと行い、成績評価は合議で判定している。</p> <p>博士後期課程においても「国際日本学合同演習」における中間報告を義務化している。また、規程により、予備審査を実施することを定めるほか、提出資格（既発表論文数および査読付き雑誌発表論文数）を定めている。口述試験は公開制で実施し、透明化を図っている。</p>	
④学生の就職・進学状況を組織的に把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p><b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学全体として、卒業・修了時に「卒業生カード」を通じて進路を申告させている。ただし、母国に帰国する留学生は、帰国後に就職活動を行うため、その進路をすべて把握することは困難である。</li> </ul>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・学生の就職・進学状況の組織的な把握の方策の検討が必要である。
---------------------------------

**【この基準の大学評価】**

<p>国際日本学インスティテュートでは、論文執筆過程での中間報告会や最終試験(口述試験)において、学生の学習成果を測定するために全教員参加のもとで適切に行われており、高く評価できる。</p> <p>学位授与状況は適切に把握されている。</p> <p>学生の就職状況の把握に関しては、外国人留学生が多数を占めることもあり、現状では個々の教員に任されている。</p>
---

5 学生の受け入れ

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<p><b>【学生の受け入れ方針】</b></p> <p>日本研究は従来より、様々な専門分野に分かれている。本インスティテュートは、従来の分野に収まりきれないテーマを持っている者や、広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人や外国人留学生にとって、適切である。多様な分野の教員による演習では丁寧な論文指導を行い、指導教員の演習を拠点に、他の演習や授業でも指導を受けることができる。一般入試のほかに社会人入試を設けており、さらに外国人入試では多くの留学生を受け入れている。</p>
---

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<p>(～200 字程度まで) ※募集人員およびその充足状況をどのように捉えているかを記入。</p> <p>社会に向けて定員を 14 名と公表している。しかし、本インスティテュートは人文科学研究科 5 専攻が共同で開設するコースであり、学生はこのうちのいずれかの専攻に所属することになる。したがって、実際には定員は専攻ごとに管理されることになる。現在、本インスティテュートへの入学者は毎年 20～30 名で推移しているが、専攻ベースで見た場合、超過・未充足が生じている。未充足分については、本インスティテュートでも入試改革(下記「(2) 特記事項」参照)や、進学ミニ講演会の開催などにより、充足に努めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	
5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。	
①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。	A <input type="checkbox"/> B <input checked="" type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p><b>【検証体制および検証方法】</b> ※箇条書きで記入。</p> <p>・運営委員会において検証を行っている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・ESOP 受講者対象研修生入試を導入した。	5.1①
・大学院入試協定にもとづく中国現地入試に福建師範大学が加わり、4 大学を対象とする入試となった。また、協定を変更し、受験資格を卒業見込みの者から卒業後 3 年以内の者に拡大した。	5.1①

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・本インスティテュートの学生を含めると、各専攻で定員の超過・未充足が生じる。そのため、各専攻における定員の設定・管理の妥当性を検証し、改善する必要がある。
---

**【この基準の大学評価】**

<p>対外的に公表している国際日本学インスティテュートの入学定員と実際の入学者の間にずれがあることは、事実上の定員管理を専攻に委ねていることによりやむを得ないと思われるが、抜本的な改善の余地がないのかどうか疑問が残る。専攻ベースでは定員の超過や未充足の問題が生じているものの、ESOP 受講者を対象とする研修生入試や中国での現地入試など入試制度改革によって定員の未充足の改善に努めていることは評価できるので、その成果に期待したい。</p>
---

6 学生支援

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。	
①研究科(専攻)等として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
<p>(～400 字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。</p> <p>本インスティテュートでは、「日本語論文作成実習 I・II」「日本語論文作成基礎 A I～IV、B I～IV」を開講し、留学生の日本語作文能力の強化に努めている。また、日本文学専攻と共同で、研修生クラスの学生を対象に「日本文学・国際日本学基礎演習」「日本文学・国際日本学論文作成基礎実習」を開講し、調査・研究方法の指導、日本語作文の指導も行っている。授業以外では、本学大学院が実施しているチューター制度、諸外国語による論文等校閲補助制度を活用し、日頃の学修活動から修士論文執筆まで円滑に進むよう支援している。</p>	

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2016年度『大学院講義要項（シラバス）』pp. 93～94、303～308

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・2015年度に「国際日本学論文作成実習（日本語）Ⅰ・Ⅱ」を能力別2クラス制から3クラス制へ拡充した。また、2016年度より、これを「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」に再編し、教育の充実化を図ることを決定した。	6.1①

(3) 現状の課題・今後の対応等（任意項目）

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートでは、2016年度より「日本語論文作成実習Ⅰ・Ⅱ」「日本語論文作成基礎AⅠ～Ⅳ、BⅠ～Ⅳ」において留学生の日本語作文能力の強化に努めており、高く評価できる。実際に授業を行った後での検証も大切であり、検証結果から改善できる点は改善するように、今後の見守りを望みたい。日本語論文作成の授業はレベル分けをしているとのことなので、これもその成果の検証を期待したい。また、授業以外にチューター制度、諸外国語による論文等校閲補助制度の活用などで、日頃の学修活動から修士論文執筆まで支援しているのは適切であり、その成果に期待したい。

7 内部質保証

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。

はい いいえ

【2015年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

・本インスティテュートの質保証活動は2015年度まで、人文科学研究科および同研究科質保証委員会が担当してきた。

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

国際日本学インスティテュートの質保証活動は人文科学研究科および同研究科質保証委員会が担当し、適切に活動が行われている。

【大学評価総評】

国際日本学インスティテュートは、国際的な視野に立脚する日本学の研究を世界に発信することによって、大学院のグローバル化の推進に貢献するための独創的で柔軟な教学組織として大いに期待できる。約8割を留学生が占めているという実状もその意味で高く評価できる。国際性と学際性をバランスよく発展させ、多国籍の人材が日本学を修め、相応しい文化人としての付加価値を付与されて、国際社会へと還元していくことには教育上の負荷やそれに伴う課題があると思われる。日本語教育や英語教育、入試改革などすでに改善の取り組みは具体的に進んでいて、博士後期課程のコースワーク化を視野に入れたカリキュラムの改革も緒についていることから、今後のさらなる努力と成果に期待したい。また、定員管理と質保証活動については、専攻と同じ基準を適用する必要はないとはいえ、インスティテュートとしてのある程度明

確な独自の方針は引き続き検討が望まれる。